

よむYOMUワークシート

指導にあたる先生へ

2020年度の先行事例を紹介します

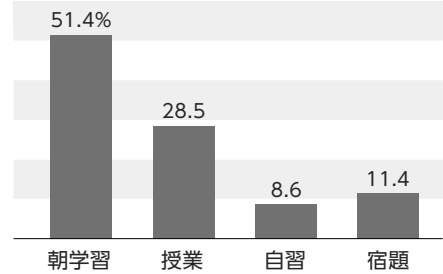
2020年度に「よむYOMUワークシート」に取り組んだ学校では、指導した教員へのアンケートも実施しました。

◇ 小学校は「朝学習」、中学校は「授業」

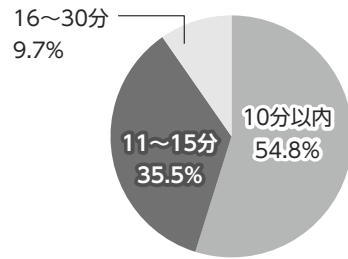
取り組んだ時間帯は、小学校では「朝学習」が最も多く、ほかに「授業」や「自習」「宿題」などがありました。中学校では「授業」が最も多くなりました。

児童・生徒にとっては初めての教材なので、「最初の1～2枚は慣れるために授業で一斉指導し、以降は週末の宿題にしました」との回答もありました。

■ 取り組んだ時間帯 (小学校)



■ 実施時間 (小中学校)



◇ 実施時間は15分以内

実施時間 (答え合わせ・解説などを含む) は、小学校・中学校とも「15分以内」が約9割でした。30分近くかけたケースでは「社会の授業で調べたことを思い出しながら指導した」「記事のテーマで学年集会を開いた。共通の知識を持って話し合うことができた」などがありました。

指導事例

2020年度の各校の取り組みを参考にワークシートの指導事例をまとめました。子どもたちにあった指導で、より効果があがります。参考にご活用ください。

指導事例 A (対話型)

教室で時間を区切って一斉にワークシートを行う。

グループごとに話し合せて各自の解答を見合わせる。

教師は、子どもから解答を求めながら答えを合わせる。

答え合わせの時、解説をもとに根拠となる部分などについて解説する。

指導事例 B (個別型)

子どもたちの学習スタイルに合わせて、宿題や学校の間隙時間に行う。

学校で行う子どもには助言指導を行う。

翌日などに解答を配布しながら、解説する。

指導事例 C (授業型)

授業時間に一斉に読みながら解答を考える。

挙手して解答する子どもには根拠を示して答えさせる。

教師は解答を示し、解説する。



よむYOMUワークシートは、新聞記事に親しみ資料を読み解く力をつけるための補助教材です。子どもの実態や先生方の指導理念にもとづきよりよい指導方法で行うことが良いと思います。

田中 孝宏 (読売新聞教育ネットワーク アドバイザー)

